

一宮町長
馬淵 昌也

先般7月30日の朝、カムチャツカ半島で大きな地震があったということ、津波注意報が発表され、暫くして津波警報に格上げされました。8時半過ぎにサイレンが鳴ったときには、皆さま大変びつくりされたかと思えます。警報発表時、町の予想津波高は3mでしたが、結局海面の大きな上昇には到りませんでした。従って被害もなかったのは、幸いでした。

役場は注意報で海岸部からの退避を呼びかけ、警報で津波浸水想定区域に避難指示を出しました。総数で700人を超える多くの方が避難されて、色々と学ぶことの多い経験となりました。気づいたことをいくつか記しておきたいと思います。

まず、一宮川最下流の新一宮大橋と新一宮橋が、警報発表とともに、自動で陸門が閉まり、閉鎖となりました。これは、海岸部の県道を通る車両が、川を渡って北へ向かうことができなくなったということです。そこで、海岸部にいた多くの車が、内陸部へ退避するために、海岸から役場前を通って、市街地方面へ向かうこととなり、この道が大いに混雑しました。

今回は、津波到着予想時刻の10時半まで一定の時間的余裕があったため、

また、地元は地震などの被害もなかったため、車での避難と渋滞が被害に繋がることはありませんでしたが、今後この橋の閉鎖時における情報の周知と、代替路の確保、そして車での避難の可否が大きな課題として明確になりました。

また、町内各所の指定緊急避難場所においては、午前中に避難者の方をお迎えして、その後避難が長時間にわたったので、飲食を差し上げる必要が生じたということで、それぞれにご対応いただいたということ、後に伺いました。今まで、指定緊急避難場所における飲食については、明確な指針を有していなかったため、これも新たな課題として認識できました。

また、ペットを連れて避難された方への対応も、大きな課題であると認識しました。役場の避難所では、ペット対応も考えていますが、指定緊急避難場所では、必ずしも共通の指針がありません。これも今後、解決が必要だと痛感しました。

この10年間に、津波注意報が4回、警報が1回ありました。町では津波はやはり現実の脅威です。教訓を生かして、みんなで今後に備えてゆきましよう。